

令和6年度自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日制課程									
中長期目標					今年度の重点目標		1 主体的な学びの推進 2 豊かな人間性の育成 3 生徒・保護者・地域に信頼される学校 4 働き方改革の推進		
年 度 当 初					最 終 評 価 結 果				
評価項目	評価の具体項目	現 状	目 標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策		
1 主体的な学びの推進	ICTを活用したアクティブ・ラーニング等による授業改善と適切な評価	・授業アンケートは、Chromebookを活用して全教科・科目で実施し、授業改善に生かした。 ・授業アンケートで、「この授業はICTを活用したものになっていた」の間に「そう思う」と回答したのは48.9%だった。 ・授業アンケートで、「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の間に「そう思う」と回答したのは55.5%だった。 ・開講科目ごとにルーブリックに基づいたパフォーマンス評価を行い、考査や平常点なども考慮した総合的な評価を実施した。 ・Chromebookを活用した授業実践について、教科の枠を超えた授業参観により、授業展開の工夫を行った。	・授業アンケートで、「この授業はICTを活用したものになっていた」の間に、「そう思う」と回答が60%以上 ・授業アンケート「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の間に「そう思う」との回答が60%以上	・授業アンケートを活用し、授業改善を行う。 ・各教科ともルーブリックに基づき、パフォーマンス評価を実行する。 ・ICT活用に関する教職員研修会を実施する。 ・Chromebookを活用し、課題等の配信を行う。	・授業においては課題や資料の配信、小テストなど様々な形でChromebookを活用している。 ・授業外においてもSHR連絡、学習時間調査、各種アンケート等、積極的にChromebookを活用している。 ・11月に外部講師を招聘し、授業等でのより効果的なICT活用に関する教職員研修会を実施した。 ・授業アンケートを全教科・科目で実施し、「この授業はICTを活用したものになっていた」の間に、「そう思う」との回答が53.7%、「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の間に「そう思う」との回答が62.2%であった。 ・開講科目ごとにルーブリックに基づいたパフォーマンス評価を行い、考査や平常点なども考慮した総合的な学力評価を実施した。	A	・授業アンケートを活用し、授業改善に努める。 ・Chromebookを活用し、課題等の配信を積極的に行う。 ・ICT活用に関する教職員研修会を毎年実施し、継続的に効果的な利用方法を模索する。 ・適宜ルーブリックの見直しを行い、適切なパフォーマンス評価に努める。		
	SSH事業に取り組むことで、科学探究力・情報発信力、実践力を身につけ、よりよい社会の実現を目指すチャレンジを育成	コンテストの総参加者数は102件・1100人。上位大会へ出場者は18件・43人であった。 ・「科学の甲子園」3年連続全国大会出場、化学グランプリ大賞受賞、日本生物学オリンピック銅賞受賞など全国トップレベルの活躍が見られた。 ・学校設定科目「課題探究基礎」では、週1回の担当者会を実施し、系統的なカリキュラムの検証を行うことにより内容の改善につなげた。 ・学校設定科目「課題探究応用」では、観点別評価に合わせた新しい評価法を作成し、グループだけでなく個人の取組内容の伸長を評価する仕組みを検討した。また、中間発表では大学教員に専門的な見地からのアドバイスを受け、探究力の向上が見られた。 ・学校設定科目「課題探究発展」では、イノベーション成果発表会に多数の研究者や他校教員の前で、73人の継続課題探究選択者が口頭発表を行った。 ・学校満足度アンケートで、「独自のものを創り出そうとする姿勢（独創性）は増したと思いますか」の間に肯定的回答が68.8%だった。	・各種科学コンテスト・土曜活用事業への参加など内外コンクールやコンペへの参加者数について、総参加者で120件・1200人以上 ・外部有識者による中間発表指導やフィールドワーク講習により、研究の質を向上させる ・学校満足度アンケート「独自のものを創り出そうとする姿勢（独創性）は増したと思いますか」の間に肯定的回答が70%以上	・「打って出る」の研究と進路目標を結びつける取組を継続する。 ・外部有識者による中間発表指導やフィールドワーク講習により、研究の質を向上させる ・学校設定科目「課題探究基礎」「課題探究応用」「課題探究発展」の内容を改善し、主体的探究活動のさらなる推進を図る。 ・一流講師の講演会を実施し、高い志を育成する。	・各種科学コンテスト・土曜活用事業等実施事業など内外コンクールやコンペへの総参加者数は94件・1025人であった。その内、上位大会へ出場する者は12件・30人であった。 ・4年連続「科学の甲子園」全国大会出場し総合成績で全国9位、「エコノミクス甲子園」全国大会出場、インド工科大学ハイデラバード校（IIITH）海外研究交流会参加など文系・理系問わず、生徒の活躍が見られた。 ・学校設定科目「課題探究基礎」では、週一回の担当者会において、授業の進捗・課題を把握・共有し、内容の改善につなげた。 ・学校設定科目「課題探究応用」では、「打って出る」目標と研究を結びつける取組や定期的な担当者による面談により、先行研究を踏まえた仮説を立てることができた。中間発表では大学教員に専門的な見地からのアドバイスを受け、探究力が向上した。 ・学校設定科目「課題探究発展」では全員「継続課題探究」とし、イノベーション成果発表会において外部の有識者を含む多くの聴衆の前でポスター発表または英語口頭発表を行った。 ・学校満足度アンケート「独自のものを創り出そうとする姿勢（独創性）は増したと思いますか」の間の肯定的回答は70.4%であった。	A	・外部発表会参加生徒をGoogleフォームを用いて効率的に募集し、より多くの生徒が参加できるようにする。 ・「打って出る」先の学会、コンテストを精選し、探究の内容・目的に合っているものに対して特に参加を強く促す。 ・各発表会の成果等を、ホームページ等を通じて積極的に外部に発信する。 ・高度な専門性を有する探究については大学教員の指導を仰ぎ、また共同研究をすることで、探究レベルの向上を図る。 ・イノベーション成果発表会を公開し、1・2年次生に探究活動で目指す方向を具体的にイメージさせる。		
	高い目標に向かって努力する生徒を育成する進路指導の充実	・国公立大学合格者235名（現役合格189名）、難関大学合格者数61名。 ・国公立大学の総合型選抜入試では50名が出願し20名合格、学校推薦型選抜入試では22名が出願し11名が合格した。 ・3年次放課講習及び夏季講習 27講座開設し、延べ846名が受講した（R4年度：32講座、延べ1,471名） ・夏期講習 1年次188名（R4年度229名） 2年次66名（R4年度79名） ・冬期講習 1年次 79名（R4年度115名） 2年次39名（R4年度74名） ・東京大学訪問に13名が参加した（R4年度26名）。	・国公立大学合格者220名以上（現役合格者180名以上） ・難関大学合格者70名以上	・総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試を適切に活用する。 ・個別学力試験対策の強化（授業・講習）を行う。 ・東京大学訪問を実施する。 ・高い志を持つよう講演会を実施する。	・国公立大学合格者204名（現役合格173名）、難関大学合格者数42名。 ・国公立大学の総合型選抜入試では31名が出願し17名合格、学校推薦型選抜入試では42名が出願し14名が合格した。 ・3年次生夏季講習・後期放課後講習を多数の生徒が受講している、延べ698名（R5年度590名） ・夏期講習 1年次259名（R5年度188名） 2年次 98名（R5年度66名） ・冬期講習 1年次168名（R5年度 79名） 2年次128名（R5年度39名） ・東京大学訪問に27名が参加した（R5年度13名）。 ・マザーハウス代表 山口絵理子氏、京都大学名誉教授 阿形清和氏など社会で活躍する著名人を招聘し講演会を実施した。	A	・積極的な講習の受講のために、担任・教科での声掛けを促す。 ・志望校受験について総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試を適切に活用する。 ・生徒の状況にフィットした個別学力試験対策（授業・講習）を強化する。 ・東京大学訪問を実施する。 ・引き続き社会で活躍する著名人の講演会を実施し、高い志を育成する。		
	2 豊かな人間性の育成	主体性・自律性の育成	・教員の指示がなくても自主的に掃除をする生徒が多い。生徒が自ら進んで挨拶する雰囲気がある。 ・学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組んでいるか」の間の肯定的な回答は94.2%。 ・生徒会を中心にルールメイキングプロジェクトやSDGsワークショップ等を行い、生徒が主体的に活動した。 ・総選考者数が、前年度比14%減（R4年度:291人⇒R5:251人）であった。 ・自転車用ヘルメットは、学校周辺ではほとんどの生徒が着用しているものの、登下校中に着用しない生徒もみられる。 ・問題行動件数3件。	・規範意識の高揚 ・主権者意識の高揚 ・学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組んでいるか」の間に肯定的回答が95%以上 ・生徒会活動やTEASの推進 ・選考者を延べ人数で全校生徒の25%未満（210人未満） ・SDGsの推進 ・学校満足度アンケート「あなたは主体的に学校生活を送っていると思うか」の間に肯定的回答が、70%以上 ・問題行動件数0件	・掃除と挨拶の徹底する。 ・主権者教育や環境教育など、各種領域教育を実施し、社会参画への態度を育成する。 ・選考確認票による選考指導の徹底をする。 ・自転車用ヘルメットの着用を徹底する。	・自主的・主体的に掃除や挨拶をする生徒が多い。 ・学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組んでいるか」の間の肯定的な回答は94.7%。 ・生徒会を中心として生徒が主体的に、校則の見直しやSDG s 活動、TEASの推進に取り組んだ。 ・総選考者数は、前年度比27%増(321人)であった。 ・花火打ち上げを始め、学校祭の企画・運営に生徒が主体的に取り組むことができた。 ・自転車用ヘルメットはほとんどの生徒が着用しているものの、登下校中に着用しない生徒もみられる。 ・学校満足度アンケート「あなたは主体的に学校生活を送っていると思うか」の間に肯定的回答は86.7%。 ・問題行動件数3件。	B	・選考確認票などによる選考指導において、登校手段によらず早めに準備し登校するよう促す。 ・生徒部での立ち番や、部活動・生徒会執行部の生徒を中心に「あいさつ・マナー運動」を行い、交通安全やヘルメット着用の呼びかけを行う。 ・平常の生徒指導を徹底し、問題行動を未然に防止するなど迅速で適切な対応をする。	
部活動の推進		・全国高校総体で女子高飛込優勝、女子3m飛板飛込準優勝、飛込競技女子学校対抗で優勝した。 ・全国高校囲碁選手権大会で男子団体が3位に入賞した。 ・中国大会・近畿大会出場の部活動・個人は昨年度の50から59へ、全国大会出場の部活動・個人は24から30へと増加した。	・学業と部活動の両立 ・運動部活動 県大会ベスト4以上 ・文化部活動 中国ブロック大会以上 ・中国大会・近畿大会出場の部活動・個人の総数50以上 ・全国大会出場の部活動・個人の総数が25以上	・中国大会・全国大会へ出場する部活動を増やすために指導方法の改善と工夫を推奨する。 ・「部活躍報告」を行うことによって、賞賛する機会を設ける。	・国民スポーツ大会セーリング競技大会において、少女女子ILCA6で優勝した。 ・中国大会・近畿大会出場の部活動・個人は昨年度の56から61へ、全国大会出場の部活動・個人は26から28へと増加した。 ・「部活躍報告」で県大会等で上位に入賞した部活動を表彰し、本校のHPに掲載した。	B	・引き続き、中国大会・全国大会へ出場する部活動を増やすために指導方法の改善と工夫を検討する。 ・「部活躍報告」を引き続き実施し、賞賛する機会を設ける。		
体験的な学びの推進		・台湾桃園市立陽明高級中学との国際交流事業を実施した。（受入れ生徒32名・訪問生徒15名） ・グローバルリーダーズキャンパスの受講希望者14名（R4年度15名）のうち、6名（R4年度10名）が県の審査を通過し、3名（R4年度3名）が聴講生として参加した。 ・小川・早原奨学基金によるロサンゼルス研修を3月に実施し、10名が参加。 ・米子東高等学校オーストラリア研修を3月に実施し、22名が参加。 ・図書館の貸出冊数は8,361冊だった。 ・人権教育公開LHRでは、1年次生は、グループで選択した人権課題について体験型ワールドカフェ方式で発表・質疑を行い、2年次生は、部活差別の現状を回避意識を中心に学習し、人権意識の深化を図った。 ・3年次生は、鳥取県人権施策基本方針に挙げられている人権課題についてグループで考察を深め、差別解消の担い手としての自覚を深めた。	・人権教育の推進 ・海外研修等に全校の1割以上の生徒(84名)が参加 ・読書活動の充実を図り、貸出冊数を9,000 ・ボランティア活動への積極的な参加 ・何事にも妥協せず、理想を追求する生徒の育成として、学校満足度アンケート「将来の目標を決めた上で学習していますか」の間に肯定的回答が75%以上	・台湾桃園市立陽明高級中学・新竹女子高級中学との交流を推進する。 ・読書活動の充実と交流 ・海外研修へ積極的に派遣 ・新刊紹介を積極的に行う ・SSHオーストラリア研修、SSH沖縄研修、アメリカ合衆国研修、バーモント州研修の実施 ・東京大学等訪問研修の実施 ・体験型ワールドカフェ形式の人権教育公開LHRの実施	・台湾桃園市立陽明高級中学の生徒と本校の生徒9名がオンライン交流を実施した。（5月） ・グローバルリーダーズキャンパスの受講希望者7名（昨年14名）全員が県の審査を通過（昨年6名）し、受講生として参加した。また、昨年度の受講生のうち1名が最優秀受講生に選ばれ、スタンフォード大学での表彰式に参加した。（8月） ・アメリカ合衆国研修（サンディエゴ・8月）に10名、台湾研修（12月）に30名が参加した。 ・オーストラリア研修（ケアンズ）に29名、SSHオーストラリア研修（アデレード）に10名が参加した。（3月） ・海外研修等に全校の1割以上の生徒(84名)が参加した。 ・図書館の貸出冊数は6,904冊だった。 ・各学年の人権教育LHRでは、参加型・対話型の授業実践により、生徒の主体的参画を一定程度促すことができた。 ・学校満足度アンケート「将来の目標を決めた上で学習していますか」の間の肯定的回答は79.4%であった。	B	・台湾桃園市立陽明高級中学・台湾国立新竹女子高級中学との交流を推進する。 ・海外研修に参加した生徒の体験発表会などを実施することで、他の生徒の海外研修への興味・関心を高め、積極的な参加を促す。 ・引き続きSSHオーストラリア研修、SSH沖縄研修、アメリカ合衆国研修などを計画し実施する。 ・新刊紹介を積極的に行い読書を啓発する。 ・人権教育LHR及び各教科の日常の学習において、自身を現実社会の差別構造の中に置いて考える視点や姿勢の提示や定着をはかる授業実践の検討を行う。		
3 生徒・保護者・地域に信頼される学校	P.T.A活動の充実	・7月には、P.T.A進路講演会を行い保護者318人（内170人オンライン視聴）が参加した。 ・9月には、「高校生あいさつ・交通マナー運動」を学校周辺の通学路で行い保護者5人が参加した。 ・9月には、障がい者問題をテーマにP.T.A人権教育推進委員研修会を行い保護者14人が参加した。1月には、マジョリティ特権をテーマにP.T.A人権教育研修会を行い保護者11人が参加した。また、機関紙『ロゴスのこころ』を発行した。 ・11月には、P.T.A大学訪問を行い保護者34名が神戸大学、関西学院大学を見学し、説明を聴いた。また、コーチングをテーマとしたP.T.A主催講演会を行い保護者47名が、学校・家庭における「育ちの支援」について学習を深めた。 ・2月には、生徒・保護者・教職員の意見交換会を行い保護者4人が参加して生徒会活動や校則の見直しについて意見交換をした。 ・米東だより（110号・111号）や号外の教職員紹介号を予定通り発行した。 ・地域連携協働活動に取り組み、休日等に図書館、自習室を開館した。	・保護者と教職員の連携によるP.T.A活動の活性化 ・各P.T.A活動に参加する保護者が前年度数より増加するよう取り組む	・P.T.A役員と担当教員が中心となり、各委員会活動が充実した内容となるように努める。 ・マチコミメールで、保護者にP.T.A活動等の案内・連絡・出欠の確認を行い、周知する。	・P.T.A総会(5月)、各学年合同保護者会(5・6月)、各種委員会を実施し、学校の目標や現状、P.T.A活動等について保護者と共有した。 ・P.T.A進路講演会を7月に実施し、保護者280人（内138人オンライン視聴）が参加した。 ・「高校生あいさつ・交通マナー運動」(9月)を学校周辺の通学路で行い保護者13人が参加した。 ・P.T.A大学訪問（11月）を行い保護者24名が広島大学を見学した。 ・P.T.A生徒育成委員会において生徒・保護者・教職員の意見交換会(1月)を行った。 ・P.T.A人権教育推進委員研修会を1月に実施し、8名参加した。 ・米東だより113号、114号、号外の教職員紹介号を発行した。 ・今年度より保護者宛の案内文書をマチコミメールで配信し、P.T.A活動の連絡や出欠確認もメールで行っている。 ・県人数や全人数など、外部主催の研修会に保護者からの積極的な参加があった。 ・P.T.A人権教育推進委員会機関誌は年度末に発行したが、P.T.A研修会は実施できなかった。	B	・引き続きP.T.A役員と担当教員が中心となり、各委員会活動が充実した内容となるように努める。 ・マチコミメールで、保護者にP.T.A活動等の案内・連絡・出欠の確認を行い、周知する。 ・保護者に対する校内・校外の研修への参加を積極的に呼びかけ、参加者からの研修内容の報告を委員及び保護者全体で共有する仕組みを確立する。 ・校内研修については、保護者の問題意識や関心に合致したテーマを設定し、参加型など研修方法を工夫する。		
	地域への発信	・学校行事の際は積極的に取材に赴き、ホームページに掲載した。ホームページ更新回数は133回（R4年度104回）。 ・部活動の活躍など生徒の活動の様子を写真やコメント付きでホームページ上で発信した。 ・学校満足度アンケート（保護者）「学校のHPは必要な情報をタイムリーに発信しているか」の間の肯定的な回答は74.5%。 ・学校運営協議会を3回実施（2回目は書面により実施、R4年度までは2回実施）し、地域と連携した学校運営に努めた。	・積極的な学校情報の発信による地域・保護者への学校理解の促進 ・学校満足度アンケート（保護者）「学校のHPは必要な情報をタイムリーに発信しているか」の間の肯定的な回答が85%以上 ・地域との連携強化や学校運営協議会との適切な連携・協働による地域とともにある学校づくり	・ホームページにより積極的に学校情報を発信する。（130回以上更新） ・ホームページを迅速に更新する。 ・学校運営協議会を定期的に開催し、熟慮をして地域等との連携を深めた学校運営を行う。 ・報道提供を積極的に行う。	・学校行事や部活動の活躍など生徒の活動を写真やコメント付きでホームページで発信することが出来た。 ・ホームページ更新回数は158回（昨年122回）。 ・学校満足度アンケート（保護者）「学校のHPは必要な情報をタイムリーに発信しているか」の間の肯定的な回答は81.9%（昨年74.5%）。 ・国民スポーツ大会セーリング競技優勝祝勝会など3件の報道提供を行った。	B	・引き続きホームページにより積極的に学校情報を発信する。 ・ホームページを迅速に更新する。 ・報道提供を積極的に行う。		
	時間外業務時間の削減	・ペーパーレスで職員会議を実施した。 ・採点ソフト百問簿の利用を促進し、多くの教員が利用した。 ・個々の教職員が、定時退勤日を設定するなど意識を高める工夫を行った。 ・時間外業務時間が月45時間を超える職員が延べ24名、年間360時間を超える教職員が8名おり、声掛けを継続した。	・「県立学校教育職員の勤務時間の上限に関する方針」に定める上限時間の遵守 ・時間外勤務の月45時間超の者を0名へ、年間360時間超の者を0名にする。	・「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守するとともに、声掛け等により個々の業務の効率化を促す。 ・業務を分担するために、担任2名制とする。	・担任2人で協力してSHR、LHRやキャリア・パスポート等の業務を分担して行い、業務改善に努めた。 ・時間外勤務の月45時間超の者は延べ22名、年間360時間超の者は8名。		B	・「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守するとともに、声掛け等により個々の業務の効率化を促す。 ・担任2名制を進め、より効率的に業務に取り組む。	
4 働き方改革の推進	会議の精選	・Chromebookを用いてペーパーレスで担任会を行うなど、会議の効率化に努めた。 ・会議の時間を取らず、朝礼などでの連絡・報告・確認を行うことで業務の効率化を図った。 ・11月をノー会議月間とした。	・協議スキームを徹底し、会議・委員会の開催回数と時間を削減	・朝礼後に分掌の打合せを行い、業務の効率化を進める。 ・今年度も11月にノー会議月間を設定する。	・検討事項に関して、事前にClassroomで資料を配信したり予告を行ったりするなど、会議における協議の時間の短縮に努めた。 ・ノー会議月間を11月に実施した。	B	・朝礼後に分掌の打合せを行い、業務の効率化を進める。 ・ノー会議月間を設定する。		

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】